

<b>二番茶後の浅刈りによるチャトゲコナジラミの耕種的防除</b>			
<b>【要約】</b> 二番茶摘採後の浅刈りは、チャトゲコナジラミに対して40～50%の防除率が得られる。また、周囲からの成虫の飛び込みがない状態では、幼虫密度が大幅に低下することから、生産団地ごとの一斉実施など成虫の飛び込みを防止することが重要である。			
農業技術振興センター・茶業指導所・茶振興担当		【実施期間】 平成21年度～平成23年度	
【部会】 農産	【分野】 環境こだわり農業と温暖化対策	【予算区分】 国庫	【成果分類】 指導

### 【背景・ねらい】

チャトゲコナジラミは、難防除害虫として問題になっており、有効な防除法の確立が強く望まれている。本種は、成虫以外はほとんど移動能力がないため、寄生部位を刈り落とす浅刈り等のせん枝が耕種的防除として期待される。

そこで、チャトゲコナジラミに対する二番茶後の浅刈りの防除効果と周囲からの成虫の飛び込みの影響、さらに浅刈りによってせん除した枝条の鋤込みについて検討する。

### 【成果の内容・特徴】

- ① 二番茶摘採後に浅刈り（二番茶摘採面から5cm程度深くせん枝する処理）を実施してチャトゲコナジラミ幼虫の寄生部位をせん除すると、40～50%の防除率が得られる（図1、2）。
- ② 浅刈り後に周辺茶園からの成虫の飛び込みがなければ、幼虫密度は極めて低く推移する（図2）。
- ③ せん除した枝条からは成虫の羽化が認められるが、浅刈り後に枝条の鋤込みを行っても、防除効果に変化はみられない（表1、図3）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ① 生産団地単位で一斉に浅刈りを行うなど、地域全体で本害虫の密度を低下させる必要がある。
- ② 周辺茶園からの成虫の飛び込みがある場合、浅刈り実施後に第2世代幼虫を対象として農薬散布を行うことで、補完的な防除効果が期待できる。
- ③ 二番茶後の浅刈りを行うと翌年一番茶の新芽数が減少し減収するので、多発時のみの実施にとどめ、連年実施を避けるなどの注意が必要である。
- ④ せん除した枝条の鋤込みによって防除効果に変化はみられないが、枝条のうね間堆積は施肥効率の低下を招くため、浅刈り後は鋤き込みが必要である。

[具体的データ]

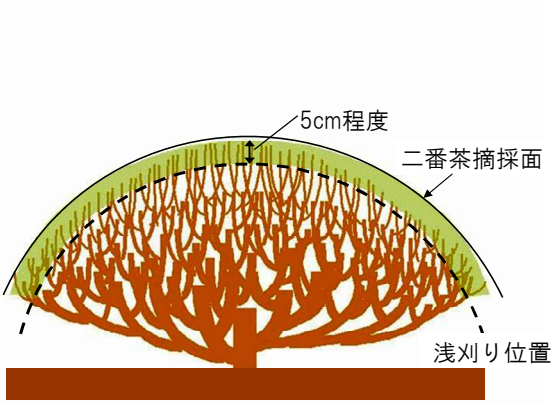


図1 二番茶後の浅刈り

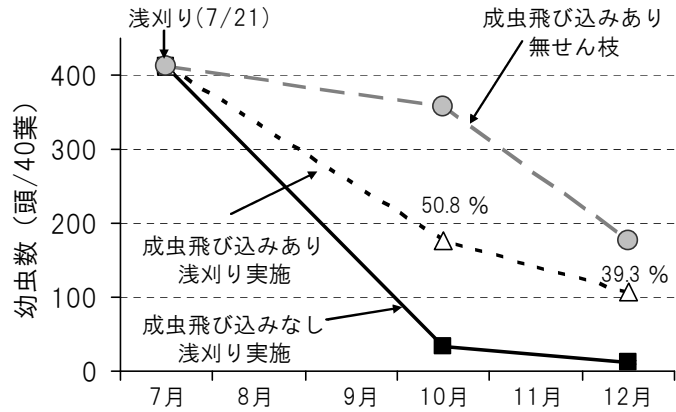


図2 浅刈りによる防除効果と成虫飛び込みの影響 (2010年)

注) 成虫の飛び込み防止は 0.4 mm 目合いの防虫ネットによる。せん除した枝条の鋤込みなし。  
 図中に示す割合は、各時期における防除率。  

$$\text{防除率 (\%)} = (1 - \text{Ta}/\text{Ca}) \times 100$$
  
 Ca=成虫飛び込みあり、無せん枝の幼虫数。  
 Ta=成虫飛び込みあり、浅刈り実施の幼虫数。

表1 せん除された枝条からの成虫の羽化 (2011年、室内試験)

3、4齢幼虫の寄生数 (7月15日)	羽化成虫数 (8月10日)
32	9

注) 2011年7月15日の浅刈りによりせん除された枝条の成葉を20葉採集し、25℃ (15L、9D) で飼育後2011年8月10日に成虫発生数を調査。

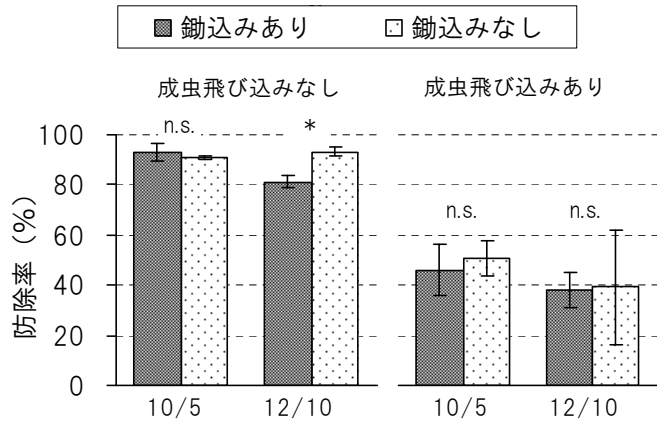


図3 せん除枝条の鋤込みの効果 (2010年)

注) 図中の \* は鋤込みの有無で有意差があることを示す。n.s.は有意差なし (t検定、5%)。エラーバーは標準偏差を示す  

$$\text{防除率 (\%)} = (1 - \text{Ta}/\text{Ca}) \times 100$$
  
 Ca=成虫飛び込みあり、無せん枝区の幼虫数。  
 Ta=各処理区の幼虫数。

[その他]

・研究課題名

大課題名：環境こだわり農業と温暖化対策に関する研究

中課題名：環境こだわり農業のさらなる展開

小課題名：チャの新害虫「チャトゲコナジラミ」の総合的防除技術の確立

・研究担当者名：

山口有希 (H21~23)、竹若与志一 (H21~22)、忠谷浩司 (H23)

- ・その他特記事項：本成果は新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「21002」で実施した。